



SDGsは豊かな地球を守るため、って大きなテーマでなんだか難しい…
けれどSDGsは経営課題を解決してくれる大切なキーワードなんです！
近くの会社をのぞいて見れば、あれ、これもSDGsなんだ！
小さなことでもまずはひとつ。SDGs、始めてみませんか？

ホテルクレール日笠

地域とともに歩む、おもてなしの心とSDGs



所在地 姫路市十二所前町22 従業員 約30名
代表者 代表取締役 原 聡 TEL 079-224-3421
HP <https://www.hotel-higasa.com>

街全体を宿に、姫路らしい滞在を

当館は1950年に「日笠旅館」として創業し、姫路城下町で宿泊客を迎えてきました。大切にしているのは、ホテルの中だけで滞在を完結させず、街全体を宿と捉える「街泊まり」です。館内には姫路ゆかりの作家・岩田健三郎氏の版画や、明珍火箸などの工芸品を取り入れ、城下町の文化を感じられる空間を演出。観光マップや女将特製の街歩きマップも用意し、飲食店と連携した食事券付き宿泊プランを販売したこともあります。宿泊をきっかけに街へ出てもらうことで、地域全体の魅力発信につなげています。

地域の食を、宿泊の楽しみに

料理は地産地消と手づくりにこだわり、播磨灘の魚や兵庫県産の肉、地元の味噌、播磨の地酒などを取り入れています。香美町の契約農園で育てる「清流米」は、スタッフも田植えや稲刈りに参加。朝食では、姫路名物のアーモンドトーストも提供

しています。また、姫路市の食品ロス削減サービス「Utteco Katteco」に登録し、アーモンドバターや姫穴子茶漬け（五つ星ひょうご選定商品）を出品するなど、余剰食品の有効活用にも取り組んでいます。

地域とともに続くホテルへ

連泊時のエコ清掃や、必要な分だけ選べるアメニティーバーを取り入れ、デマンドコントローラーによる電力モニタリングで省エネ意識の啓発も進めています。また、国籍や性別にかかわらずの採用を行っており、ミャンマー出身の正社員に加え、インドネシアからのインターン生も受け入れています。目指すのは、画一的なサービスではなく一人ひとりに寄り添う「小さな高品質」。「姫路に来たらクレール日笠がある」と言ってもらえるオンリーワンのホテルとして、これからも泊まる人と地域をつないでいきます。



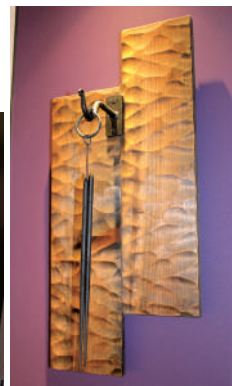
ホテル外観



デラックス和洋室 白鷺



環境に配慮したアメニティーバー



客室内に展示している
明珍火箸